

ハンドブック  
ワンポイント  
レッスン

# 知っておきたい規則とルール

## Question

市ソフトテニス連盟主催の大会でのできごとです。シニアの部の審判を女子中学生に割り当てられました。中学生は、正審・副審ともにプレーヤーとしても正選手であり、審判技術も学校で細かいところまで指導されていてしっかりできる生徒です。

試合中、プレーヤーCさんが打ったボールを正審はインの判定をしたところ、Aさんから「アウトではないのか」と質問を受け、「インです。」と答えました。Aさんは、「際どい場合は副審に相談するか、あなたが降りて見に行くかどちらかだ。」と言われたので、正審は副審に相談に行き、副審がボールの痕跡を確認してアウトと判定を変更しました。すると、AさんとそのパートナーのBさんから、「ベースラインは副審が判定する権利はないから副審がアウトに見えたとか言うのはダメ。」と言われました。副審と相談するようと言った後、それはダメとか、大人から矛盾したことを高圧的に言われ、頭の中がパニック状態になり、さらに、オンラインに見えたボールをインの判定をすると「これはアウトだろ」と小声で聞こえるように言われ、途中試合を中断され、Aさんはプレーヤー4人を集め、「審判がちょっと怪しいからこれからはきわどいボールはすべてインにしましょう。いいですね。」と言い出しました。相手ペアのCさんDさんは何も言われませんでした。正審の生徒は、こんなやりかたなら審判の意味がなくなるし、次は何を言われるのかと思いきどきしながら審判を続けました。大人が子どもに対して高圧的な態度で接するのは、審判を軽視している行為にも受け取れますし、プレーヤーとしてのマナーが問われますが、このようなときに中学生の指導者としてどのように対処したらよいのでしょうか。

## Answer

アンパイヤーは競技規則に従い、プレーヤーの円滑なプレーの進行を促し、公正かつ迅速に正確な判定を下すこと。プレーヤーは互いにマナーを尊重し、マッチの開始から終了まで連続的にプレーし、アンパイヤーの指示に従いプレーしましょう。

この度の質問は、市ソフトテニス連盟主催の大会に関係している中学校指導者が女子中学生に審判の指導が出来ていて、ある程度信頼が持てると確信し、審判依頼を受けたものと思います。

そして、女子中学生は日ごろ学習した審判技術を発表する機会が与えられ、胸をトキメカせながらの審判だったと思います。問題は3つあり、1つ目はマッチが始まり、きわどいボールを「イン」と判定を下したところ、早速Aプレーヤーから「アウトではないか」との質問があり、即座に「インです」と答えたところ、Aプレーヤーから「きわどい場合は副審に相談するか、あなたが降りて見に行くかどちらかだ」と質問(アドバイス)があったので、

正審は副審に相談に行き、副審がボールの痕跡を確認し、それを受けて正審はアウトと判定を変更しました。これまでの流れに対し、何が原因で問題が起きたのかを考えてみましょう。まず、「イン」の判定に対しAプレーヤーから「アウトではないか」との質問があり、正審は即座に「イン」と答えています。するとAプレーヤーから、きわどい場合の判定について、質問(アドバイス)があり、正審は質問(アドバイス)を受け入れて、結果的に最初の判定を覆すことになった。問題はこここのところにあります。2回目の質問に対し、即座に「イン」と答えている。これで受け答えは終わったはずですが、次からの質問は警告に該当するはずですね。なぜ2回目のAプレーヤーか

らの質問を受け入れたのでしょうか。正審(自分)の判定に自信がなかったのか、それとも質問(アドバイス)を聞いていきわどい場合には副審に依頼してもよいことに気づき、つい質問(アドバイス)を聞き入れてしまったのでしょうか。結論として、2回目の質問(アドバイス)があった時、質問(アドバイス)を却下するか、もし自分の判定が不安が伴うなら、即答するのではなく、副審に相談するなり、副審に依頼し痕跡を確認してもらい、その資料を副審から正審に報告を受けてから最終結果を正審から通告することになります。この手順を踏んでおればその後の質問はなかったでしょう。

2つ目の、オンラインに見えたボールをインと判定したところ「これはアウトだろう」と言われ、Aプレイヤーはマッチを途中中断したようです。まずオンラインのボールをインの判定にしたことについて、オンラインに見えたボールが本当にインだったのか、オンラインに見えたが実際はアウトだったのか、抽象的な用語は信頼性がなく、プレイヤーの考えに同情しないわけではありませんが、マッチを中断し話し合いをしてアンパイヤーを無視した行動は言語道断でスポーツマンシップに違反することになり、警告はもちろん、その上プレイヤーに注意の喚起をすることになるでしょう。審判は「見えた」がどのように見え、インかアウトを明確に判断を下すことが大切であって中間はありません。

3つ目に、中学校指導者へお願いすることは、生徒にきわどい場合の判定の仕方(手順)についての指導と、抽象的な表現でなく自信を持ってアウト・インがはっきり言える状況判断ができるような指導をお願いします。そうすれば、今後の審判に当たる時自信をもって審判に携わることが出来ると思います。そして、質問に対する対応手順のフローチャートの図式を確認しておきましょう。初めての審判は想像以上に大変難しく大切な役割を担っていることがよくわかり、とてもよい勉強になったと思います。最後に、プレイヤーへお願いは、審判の判定は神の判定であると受け止めるぐらいの度量が欲しいですね。

## 【関連規則】

### ソフトテニスハンドブック

#### 競技規則

第15条 プレーヤーの心得

第40条 異議の申立て等の禁止

第41条 警告

#### 審判規則

第6条 アンパイヤーの任務

第7条 アンパイヤーの心得

第8条 アンパイヤーの判定区分

第12条 判定の確認

第13条 判定の連携

第14条 再判定

第15条 判定の誤り

第19条 注意の喚起

第20条 警告

#### ジュニア審判マニュアル

#### 競技規則について

4. プレーヤーがよくわかっていなければならないこと(心得)

14. 禁止事項

17. 警告

#### 審判規則について

1. アンパイヤーの任務と心得

4. 判定の確認と連携

5. プレーヤーから質問があったときは? (再判定)

